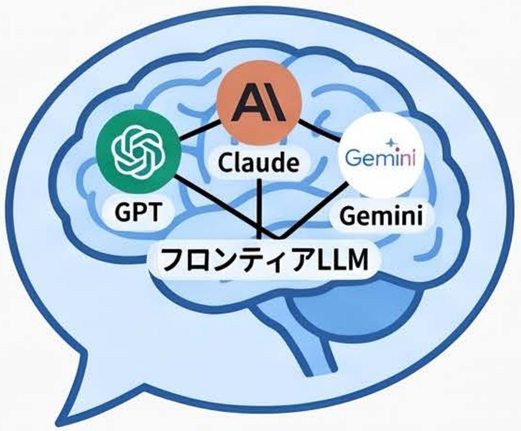
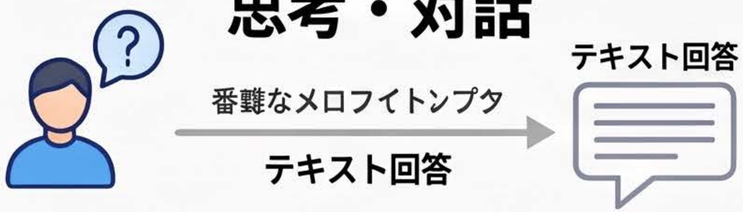
【図解】Manus 2.0 vs 従来型LLM：「対話型AI」から「自律行動型エージェント」への進化

Manus 2.0が従来のフロンティアLLM（GPT/Claude/Gemini）とどう異なり、どのような仕組みでタスクを自律実行するのかを視覚的に明快に伝えること。

従来型LLM（Thinking & Dialogue）



思考・対話



単なるテキスト回答を提供

Manus 2.0（Action & Execution）

Manus 2.0
自律実行・オーケストレーション基盤

行動・実行



実タスクを完遂

思考エンジン

適材適所で呼び出し



Cascade
（動的ツールロード基盤）
タスク進捗に応じて必要な機能のみを読み込み、トークン消費と実行時間を大幅削減

仮想マシン環境（Ubuntu Sandbox）



動作する成果物を直接納品
（Webアプリのライブ URL、計算式入りExcel、動画タイムラインなど）

実用性とエンタープライズ運用の課題



GAIAベンチマーク
タスク完了率
高度な推論と実OS上のGUI操作（OSWorld）において従来モデルを凌駕



タスク中断

クレジット急消費リスク
深掘り調査（Wide Research）等で1回の並列調査で大量消費



間接的プロンプトインジェクションの脅威
外部からの悪意ある命令を自律実行してしまうリスク。最小権限での運用が必須

Gemini Notebook